

構築にあたっての注意事項

最後に課題を実践してもらうにあたってのその他の注意事項を記載しておきます。こちらを確認した上で課題に取り組んでみて下さい。

フォルダ構成

```
/Lesson23/  
├ /01_デザインカンパ・資料/          ...①  
├ /02画像素材/  
│   ├── /img素材書き出しサンプル/    ...②  
│   └── /動的画像素材/                ...③  
├ /03開発用ディレクトリ/            ...④  
└ /04完成コード例/                  ...⑤
```

- ① デザインカンパ（XD）と制作資料（Excel）が入っていますので確認してください。また、全画面のページごとの書き出し画像も資料として入れておきました。
- ② 完成コード例で使ったimg書き出し素材一式です。これをそのまま使っても構いません。
- ③ カンプ上ではダミー画像となる動的画像の元素材写真です。縦横比・サイズなどはバラバラです。実際にはこのようなバラバラの素材が入ってくると思われるので、こちらをダミー画像として活用してもらっても良いかもしれません。
- ④ 各自でサンプルサイトを構築してもらうディレクトリです。中身は空なので全てを0から用意して下さい。なお本書の他のサンプルのファイルや、自分用のテンプレート等をベースにすることなど、やり方は自由です。普段webpackやgulpなどの開発環境を利用している人はそうしたものを利用しても構いません。
- ⑤ 完成コード例です。自分で実際に構築してもらうのが一番経験値の向上に繋がりますが、どうしても忙しい方は完成コード例のソースを研究するだけでも良いかと思います。全てではありませんが特別な意図があるところについては適宜コメントを入れてありますので、参考にしてください。

デザインカンパ上のメモ書き

カンパ上にはメモで細かい実装上の注意点をできるだけ記載してありますので、よく読んで実装に活かして下さい。ただし実際の案件ではここまで詳細に実装上の注意点を記載してくることはまずない（それをするくらいなら自分でコーディングする）ので、本来は各自がデザインカンパ上から読み取る・あるいは自分からデザイナーに確認すべき情報であることを意識しながらチェックするようにすると良いでしょう。

デザインカンパの数値

XD上で要素の余白やサイズを計測すると、小数点の端数が出ていたり、上下左右の数値が微妙にぶれていたりするところが多いと思います。こうしたものは実際の現場では日常茶飯事です。で、あらかじめどのように処理するのかデザイナーと協議して対応ルールを決めるようにしましょう。本件の場合は、

- ・ 余白・サイズは原則5の倍数に揃える。ただし20px以下程度の小さなパーツについては1px単位で調整する。
- ・ コンポーネント間の余白リズムは考えてあるので、指定数値上は再現する。ピクセルパーフェクト的な個別の手作業での調整までは求めない。
- ・ レスポンシブ時のサイズ感の調整はコーディング担当に主導権を渡すので、いい塩梅にしてほしい。

といった形で対処するようにしてください。なおこの方針は比較的コーディング寄りのゆるい方針ですので、実際の案件ではもっと忠実にデザインカンパを再現することを求められる場合もあります。このあたりの再現性の許容範囲は案件ごとに千差万別であるため、分業制の場合は必ず最初の段階で認識をすり合わせておき、双方納得できる落とし所を決めておく必要があります。